

2014年度は新たな事業とともにスタートしました。

今年も「とも」恒例のお花見と共に始まった2014年度。このお花見には、毎年障がいがある人もない人も、実に多様な方々が集ってくださいます。この風景を見ていると、これが地域の姿だなと思うと同時に、「とも」は本当の多くの一人一人の皆様に支えられて存在していることを改めて思います。

平成25年度は、身体障がい者福祉センター事業が4月より始まりました。決まった人が決まった時間に定期的に通ってくる通所施設を持たない「とも」としては、初めての試みとなりました。

始まる事業の一方で、終わっていく事業もありました。6年にわたり浦安市より委託を受けて行ってきた夜間安心訪問ヘルプサービス事業の委託期間が終了しました。(3ページを参照ください。) 市内で暮らす障がいを持つご夫婦が、夜間の転倒など、何かあった時の助けがほしいというSOSから始まった事業です。夜22時から翌朝6時まで365日、大雪の日も、激しい雨や嵐の日も、過日の震災の時も、緊急時に対応したり、定時に訪問し利用者さんへのケアを行ってきました。

この事業は、「とも」でも厚生労働省の研究事業で行った、24時間型の訪問介護看護という国の制度と身体障害者に関しては浦安市の単独の事業に移行されました。「とも」の事業ではなくなりますが、私たちが利用者さんのニーズからこのようなサービスの必要性を伝えられたこと。また、その事業の実践が、時を経て国の制度になっていったことは「とも」の在り方ともつながり、意義深く感じています。



また、厚生労働省の研究事業と言えば、研究事業を行った二つの事業が今年は節目を迎えました。一つは

相談事業です。民間からはじまり、浦安市の委託事業となったのが平成15年。その後、背景の制度や事業名も変わりながら行ってきましたが、昨年の公募を経て今年度からは浦安市基幹相談支援センターとして、地域のまさに基幹としての機能を果たす事業となりました。

もう一つの事業は、25年度5周年を迎えることができた地域活動支援センターともです。利用者さんたちの自主的な活動も増え、5周年の集いでは当事者の皆さんがご登壇くださり、5年間の活動を振り返り、役割を共有し、今後の方向性を確認することができました。

- 障がい重い人も地域で暮らせる支援の構築を -

平成26年度、障がい福祉の予算や施策をみると、就労、生活介護などの通所施設、グループホーム、日中一時支援事業所に対して、重度障害者(支援の難易度が高い)を受け入れた場合の加算がつくこととなりました。支援の難易度が高い人のケアを引き受ける事業者が少ない、という現実に関心をもちたいと思います。

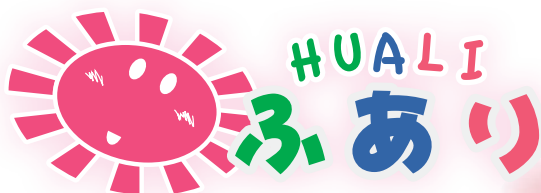
一方、何年も地域の課題になっている、朝、夜間や休日稼働するヘルパー不足についての予算や施策は残念ながらありませんでした。

自宅での暮らし、グループホームでの暮らし、家族との暮らしなど、どこを選んだとしても地域で暮らすためには、やはり24時間365日稼働するヘルパーと、何かあった時のバックアップとなるセーフティネットの構築は必要不可欠です。

昨年度も、支援の難易度が高い人が自宅で暮らしていたけれど、十分なヘルパーの確保ができずに入所施設に見送ることもありました。一緒に暮らしていきたいのに、それができない現実。ギリギリの生活をしている方たちが少なからずいます。

私たちは地域の中にある声になりにくい、でも切実なニーズを一番身近に知っている事業者の一つではないかと思っています。本当にどんな障害のある人も地域で暮らし続けるためには、セーフティネットの構築を含めた十分な量と質の24時間365日の支援が地域には必要であることを伝え続けるとともに、実践を通して実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

理事長 西田 良枝



“ふあり”が継続した発達支援を提供します!!

～ふありの事業内容がさらに充実しました!!～



平成24年6月に開所した児童発達支援事業所ふあり。子どもと保護者と共に、障がいや発達の遅れ等を理解し、個別の認知訓練や機能訓練をはじめ、集団プログラム、プール療育プログラムなどを提供してきました。

保護者からのご要望やこどもたちのニーズも取り入れ、平成26年度はさらに事業内容を充実し提供していきます。児童発達支援事業では、親子通園だけでなく、親子分離通園も開始、また保護者同士の交流の場として土曜日にグループ活動も行っています。また、利用者からの希望が多かった言語聴覚士（ST）の個別訓練が予約制で毎日、作業療法士の訓練は月曜日に実施できるようになりました。また障がいの種別を問わないことに加え、医療的なケアを必要とする幼児・児童の通園も積極的に行っています。

利用者の方から“学校にお迎えにきてほしい”、“自宅に送ってもらおうと便利”という声にもお応えできるように、児童発達、放課後等デイサービスの両事業に送迎サービスを加え

ました。児童発達支援事業では、送迎をつけることで、保育園に通っている児童に対してもふありの集団療育を提供することが可能になりました。

学校お迎え、自宅送り等ご要望をお聞かせいただき、できる限り対応していきたいと考えています。障害福祉団体に活動していたころから力をいれてきた、専門性の高い療育も制度移行し、ふありで実施することで、療育メニューも広がり、利用者にとっても様々な療育を体験しやすくなったと実感しています。ぜひ、療育について詳しく知りたい方、また親子通園に興味のある方、STやOTなど機能訓練

の頻度を上げたい方など、お問い合わせください。随時体験、見学もお受けしています!!



▲ トランポリンで
びよん!びよん!



▲ 療育で制作した作品
題材は『お花見』



▼ かわいい『お友達』もたくさん

夜間安心訪問ヘルプサービス終了に伴うご報告

私たちは浦安市夜間安心訪問ヘルプサービス事業を平成20年4月から受託し、今年の3月までサービスを提供してきました。

6年前、利用者からこんな声がありました。「移乗に失敗し、床に落ちてしまった時、朝のヘルパーが来るまで冷たい床で待たなくてはいけない。何とか助けにきてもらえないか」「オムツを使用しているが、お腹の調子を崩した時などオムツに排泄したまま我慢している。本当はすぐにオムツを交換して欲しい」。少ない人員でしたが、利用者のニーズに応えました。夜間専従のヘルパーは置くことができなかったため、日勤の職員が夜間も緊急携帯を持ち、どんな時でも呼ばれたら駆けつけろというサービスを「とも」独自で行っていました。何とか行政が行う事業で支援体制が組めないのか、利用者とともに相談員が行政へ訴えました。そして出来たのがこの事業でした。（事業開始時の委託先は別の事業所でした。）

この6年間で様々な支援を行いました。訪問した際にヘルパーがバイタルの異変を発見、救急車を要請したこと。その方は緊急手術をして命を取り留めました。ヘルパーが訪問していなければ、発見が遅れ最悪の結

果も考えられました。

病気が末期となり入院されていた方が、どうしても自宅に戻りたいという希望で自宅に戻った後、訪問しました。その訪問時には息を引き取られた後でしたが、まだぬくもりはあり、ご自宅でご家族と支援者でその方を見送ることができました。このサービスがあったから1人暮らしや夫婦で障がいがある方などが継続して地域生活を送る事ができたと思います。多くの方に支えられて、私たちはこの大切な支援を担う事が出来ました。ありがとうございました。今年度からは24時間型定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスとなり、他事業所へと移行されました。



お知らせ

ホームページがリニューアルしました！

お知らせ

浦安市民の方にご協力を得て、ホームページをリニューアルしました！

パーソナル・アシスタンスとも 職員一同は、各事業部のサービスの紹介や各事業部で行うイベントや勉強会のご案内など様々なトピック

スを、HPのブログを更新するという形でお届けさせて頂いています。

皆様に読んでいただけることを励みに、これからも積極的に更新をしていきたいと思いますので、時々でもご覧になって頂ければ幸いです。



25 年度の実績 と 26 年度の方針

法人本部

25 年度も昨年度に引き続き皆様方のご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

事業面では新たに浦安市身体障がい者福祉センター事業、浦安市基幹相談支援センター事業を開始し、順調に立ち上げることができました。理事会・評議員会の開催、多様な研修を通じた人材育成、就職フェア等への参加による人材確保に取り組みました。人材育成のための研修実施は延 712 回、延べ 1,917 名が参加し、介護や相談などの専門職のスキルを向上させるための研修や制度・倫理に関する研修を行いました。また外部視察として北海道の社会福祉法人はるにれの里、社会福祉法人伊達コスモス 21 を訪問し、法人事業の運営面、人材育成面で大いに参考となりました。その他昨年度に引き続き各種助成金の受領、とも通信の発行、職員の福利厚生の一環として健康診断、産業医による個別健康相談等を実施し、利用者の方々を支援する職員の健康面でのサポートを行いました。

26 年度も地域に根ざしたサービスの提供に取り組んでいきます。

療育事業

平成 25 年度も 8 つの事業を実施。専門の講師を招き行っている療育は未就学児～成人まで幅広い利用がありました。発達を促すことはもちろんですが、本人の好きなことを見つけたり、気持ちを発散でき情緒の安定に役立つなど様々な効果があります。水泳、造形、音楽など利用する方にあった種類を選び、自らが心地よい場所になること、そして保護者にとっても新たな子どもの一面を発見できる機会にもなりました。平成 26 年度も今まで同様専門性の高い療育を実施していきます。

就労支援事業部（浦安市斎場売店）

浦安市斎場売店は、一般就労先として、障がい当事者である職員が働いています。仕事は大変ですが、本人たちは「社会人である」という誇りを持っています。きちんとした挨拶が出来、マナーやルールを守る事が出来ています。初めから、出来たわけではありません。本人たちの努力です。地域で働き、暮らせることは、自分らしい生き方です。これからも、希望や夢を実現させるために、支援を行っていきます。

浦安市基幹相談支援センター

浦安市の委託を受けてスタートした基幹相談支援センターは 4 月でちょうど 1 年を迎えました。障がい者総合支援法に基づいて設置された自立支援協議会では事務局の機能を果たし、地域の相談体制強化のための事業を展開してまいりました。

また利用者さんへのより良い支援につながる相談員や支援員などの質を向上させるべく、相談スキルアップ講座、事例検討会、勉強会を多数開催しました。相談員のみならず、地域の方々に向けての勉強会も開催、地域の中で活動している多様な相談に関わる方々との連携会議も行い、地域との連携を図りました。

平成 26 年度も、これらの事業を継続すると共に、ワンストップ相談窓口として相談を実践してきたからこそ見えてきた課題解決にも取り組み、地域の相談体制の中核としての役割を果たしていきます。

居宅介護支援事業

介護保険要介護認定者の居宅サービス計画書を作成しています。最近の傾向として、いわゆる呼び寄せ老人といわれる利用者が増えています。他県や地方の故郷で暮らす父親や母親が高齢になり、要介護者となってしまった親を介護するために、自分たちが住む浦安市に呼び寄せるというものです。呼び寄せるための福祉用具等の準備や移転による市役所への届出書類の支援、新しい主治医の情報提供及び診療受診の同行、介護者の介護負担軽減を図るなど、利用者が早く新しい地域に慣れて落ち着いた生活に戻れるように様々な支援を行いました。これからも、利用者がご家族と共に快適に暮らし、安定した在宅生活が送れるように支援していきます。

パーソナルケアセンター事業部

25 年度は、旅行付添いのケアや、親が高齢により亡くなられた利用者へ、生活環境が変わる中本人が自己決定できるよう支えるケアなどを行いました。一人一人のペース、生活に合わせた個別支援を受けることで、自信につながり、新たな希望を出すことができていました。26 年度も引き続き、24 時間 365 日、必要な時に必要なサービスを提供していきます。多くのニーズに応えられるよう、人材育成・定着に力を入れていきます。

浦安市障がい者等一時ケアセンター

「浦安市障がい者等一時ケアセンター」（以降「一時ケアセンター」という）は、2003 年開所時から委託事業として、2006 年から 2021 年度までは指定管理者として社会福祉法人パーソナル・アシスタンスとともが運営させて頂いています。

一時ケアセンターは制度も無い平成 13 年から、宿泊も出来、必要な時には日中だけではなく夜間や早朝もご利用頂ける浦安市独自の預かりサービスを提供してきました。24 時間 365 日、緊急時にも支援が提供できるこの施設は、2013 年 6 月、障害者総合支援法に定められた短期入所と、浦安市が実施する地域生活支援事業の一つである日中一時支援事業に制度移行を致しました。国の制度に移行することによって、障害者総合支援法に基づく財源で運営することが出来るようになりました。

制度移行後では男性利用者の増加、未就学児童の増加が見られます。特に短期入所では自立を目指して宿泊訓練や生活スキル（お料理や掃除など）の習得を目的に宿泊を定期的に利用される成人の方が増えつつあります。

一時ケアセンターは、今年、制度移行後 2 年目を迎えますが、ケアスタッフ各人のスキルアップを通じ、施設としての質の向上を目指していくことはもちろんのこと、送迎サービスを更に充実し、喀痰吸引や経管栄養の必要な利用者への対応の為に対応可能なスタッフの教育を通じて医療的ケアの充実を図っていく計画です。そして、地域で生きる人たちのセイフティーネットとなる為に、障がいのある人の生活を支え、家族を支え、障がいのある本人の気持ちに沿ったケアを 24 時間 365 日提供し続けて参ります。

日中一時支援事業

平成 25 年度は子どもたちの様々な体験を増やしたり、小集団でのコミュニケーションの練習など生活していく上で必要な力を伸ばしていけるように、プログラムを実施しました。グループとして子ども同士の関わりが多くなり、自分のことだけでなく相手の立場に立って考える力もつきました。平成 26 年度はさらに療育としてのメニューを広げていきます。

地域活動支援センター事業部

25 年度、地域活動支援センターともは 5 周年を迎えました。この 5 年を振り返り、改めて一步を踏み出す年となったと思います。今年度は、利用者さんの主体的な姿が目立った年でした。開所当時から行われてきた、わいわい会や地域イベント、各種プログラムにおいて、企画会や運営を率先して引っ張る利用者さんが増えてきています。それは、これまでの経験の豊かさ、利用者さんがもっている力を発揮できるように促し、難しい部分はできるようになっていけるよう支援をしてきたことにより、自信や自由な気持ちが出来てきた成果であると感じます。そのような利用者さんを見て、他の利用者さんの活動も促され、当事者同士のエンパワメントも感じられます。26 年度は、ボランティアさんの育成、利用者さんの主体性の更なる向上、ほっぷの知名度を上げることで普及啓発活動の促進に力を入れ、これまで通りに黒子となりながら地域を巻き込む地活となっていきたいと思っております。

千葉県障害児等療育支援事業

療育等について、様々な相談がありました。その中でも保護者同士がおしゃべりするなかで解決できる情報や知らなかった制度などもたくさんあることから、異年齢の障がい、発達のおくれなどをもつ子どもの保護者のおしゃべり会スペース「交流スペース」を平成 25 年度も開催してきました。平成 26 年度は「ふあり」の中で保護者グループを開催する予定です。

浦安市身体障がい者福祉センター

平成 25 年の 4 月から指定管理者となり、6 月には多機能型事業所として県から指定を受けることができました。これによって、これまでの地域活動支援センターに加え、生活介護と自立訓練（機能訓練）という二つの障害福祉サービスを提供する事業所になりました。主に特別支援学校の高等部を卒業した重度の身体障がい者の日中活動の場、目標に向かって訓練をする場ができ、これまでよりも、若いエネルギーに満ちたセンターとなりました。26 年度は、この多機能事業をさらに充実させ、多職種の職員がいる強みを生かしながら、地域に密着し、開かれたセンターとなるように、生産活動の充実や、関連機関等との連携強化を図り、個々の利用者の方がさらに生き生きと生活できるように支援してまいります。

後援会「とまと歩む会」のお知らせ

こんにちは。新しい年度を迎え、皆様ご健勝のことと存じます。

とまと歩む会では、昨年度の会員の皆様からの会費とご寄付、並びにイベントでの収益により、金三十万円を、パーソナル・アシスタンスともに寄付させて頂きました。会員の皆様、ありがとうございました。新年度を迎え、心身をリフレッシュして、感謝の心を忘れずに頑張っていきたいものです。

「とまと歩む会」申し込み方法

- ◆年会費は 3,000 円です。
- ◆会員と賛助会員を選んで頂き、必ず振込取扱表の通信欄に明記ください。
口座番号・郵便振込先：00120-0-536557 / 名 義：中田光昭
- ◆会 員…時間があるときにお手伝いいただける方
- ◆賛助会員…お手伝い等出来ないがご寄付等の応援をしていただける方

発行：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とま

〒279-0022 千葉県浦安市今川1-14-52

〈編集後記〉今年度の冬は記録的な雪が降ったこともあり、例年よりとても寒く感じました。
新しく迎えたこの春、皆さんが温かくなれるようご報告をお届けできればと思う次第です。【S】